3 韓国での３週間にわたる実地研修（国際文化理解演習Ⅰ・Ⅱ）

岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科　教授　小野田摂子、准教授　吉原秋

該当する原則

原則６：人々の国際市民としての意識を高める
原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

１．活動の概要

国際文化学科では、正規授業として海外研修を採り入れ、アメリカと韓国の2コースで研修を実施している。世界的な感染症流行によって2020年の実地研修は両コースとも中止となったが、韓国コースについては、2021、22年はオンラインで実施することができた。2023年になってようやく従来通りの3週間の実地研修が可能になり、8名の学生が参加した。

韓国研修に参加する学生は、前期授業で韓国の歴史、文化、社会事情などを学び、現地での研修に備える。その後、夏期休業期間中に3週間、ソウルの慶熙（キョンヒ）大学校国際教育院に滞在し、世界各国から集まった学生たちとともに韓国語、韓国文化の授業を受講する。帰国後は、後期授業で実地研修の内容を踏まえ、各自が比較レポートを執筆し、学内で報告会を開き、学修成果を共有する場を設けている。

２．活動の内容

韓国研修の目的は、ハングル、韓国の文化や歴史を学ぶとともに、韓国の学生たちとの交流を通して異文化を理解する際の姿勢を学ぶことにある。具体的には次の４点である。

・韓国語を学ぶ
・韓国の歴史と文化を学ぶ
・韓国の現代の社会について知る
・韓国の大学生と交流する

慶熙大学校国際教育院では、オリエンテーション時の試験で能力別にクラスが分けられる。午前中は韓国語の文法の学習とともに様々な状況設定の中でスピーキング能力を磨き、午後はK-POP、韓国ドラマ、ハングルカリグラフィーなどの文化を学んだ。また、学外で市内の文化施設などを見学する現地学習も経験した。

2023年参加学生　慶熙大学校国際教育院にて

さらに、慶熙大学校に在学中の韓国の学生と１対１で交流できる「トウミ」というプログラムがある。短期研修の学生も利用することができ、今回の参加学生もそれぞれのトウミと親交を深めた。

学生は大学寄宿舎での生活、トウミとの外出や自由時間の行動を通じて、ソウルの生活文化、社会情勢などを身をもって体験することもできた。

３．活動の成果

韓国での実地研修終了後に学生が書いた振り返りから、一名のコメントを一部抜粋して以下に記載する。

「３週間参加してみて、文化の違い、考え方、環境の違いを実感しました。

キョンヒ大学での授業は、すべて韓国語で行ったため読み書きだけでなくリスニング能力を養うことに繋がったのでとても良かったです。留学前は発音ができてないなと感じることが多かったですが、授業を通して発音を学び、大きく改善することができたと思います。さらに午後の授業ではドラマや音楽を通して韓国語を学ぶことができました。特に、韓国の伝統遊びを実際に行い、楽しみながら異国の文化を学ぶことができてとても良かったです。日本の授業ではなかなか体験できないことを行うことができ、意味のある時間だったと感じました。

現地学習では、実際に現地に来たからこそできる博物館見学や公演見学などを行い、良い経験だったと感じました。

また、韓国語を必然的に話さなくてはいけない環境に置かれていたので、韓国語の実力が上がったと感じました。初日は聞き取りにくく、何を話しているか瞬時に理解することができない場面が多かったですが、徐々に良く聞き取ることができたと思います。また、お店に行った時にただ聞くだけでなく、自分から質問したり話しかけてみたりして交流をすることができました。この交流がとても印象に残っています。

また、道を歩いていて日本の汚染水排出を批判する旗がかけられていたり、駅に竹島、独島と称したオブジェが置かれていたりと日韓関係における問題に対しての批判、考え方を日常の生活から感じました。

３週間を通して、語学を学ぶだけでなく、さまざまなことを学んだり、色々なことを考える貴重な機会となりました。とても有意義な時間にすることができたと思いました。」

学生が執筆した比較レポートのタイトルは以下の通りである。2023年12月に報告会を実施するともに、報告書を冊子としてまとめた。これらは次年度以降の学生にとっても学習の参考となっている。

「日韓の映画館の比較」
「日韓のスーパーマーケット比較」
「日韓における飲食店・食事の比較」
「日韓における飲食店での食文化の比較」
「ネットカフェから見る日韓の需要や文化」
「韓国と日本のカラオケ比較」
「日韓の温浴施設の違いについて」
「日韓におけるフードデリバリーサービスの比較」

以上のように、実際に現地で研修ができたことは、学生の異文化への理解を促し、日韓の文化の比較を可能にする視点をもたらすとともに、社会問題や国際情勢を考える契機となっている。

慶熙大学校国際教育院
エントランスホール

慶熙大学校講堂